



## 稲わら燃料の生産規模と需要先Ⅱ

- 本町では、固形燃料の操作性(自動供給・制御)木質ペレット製造技術を持ち合わせている企業が町内にあることから「稲わらペレット」と選定



## 稲わら燃料の生産規模と需要先Ⅲ

- 一挙に利用先を確保することは難しく、先駆的な事例をつくりながら推進 → 普及・拡大

### ○需要想定施設

需要想定施設	農業ハウス	温泉施設
重油・灯油使用量	7.7kℓ/年(灯油)	16.3kL/年(灯油) 516kℓ/年(重油)
使用熱量	68.5Gcal/年	4,966Gkcal/年
稲わら必要量	18t/年	1,323t/年

(注)灯油:8,900kcal/ℓ、重油:9,342kcal/ℓ、稲わら:3,752kcal/kg



## 期待される効果

### □経済的効果

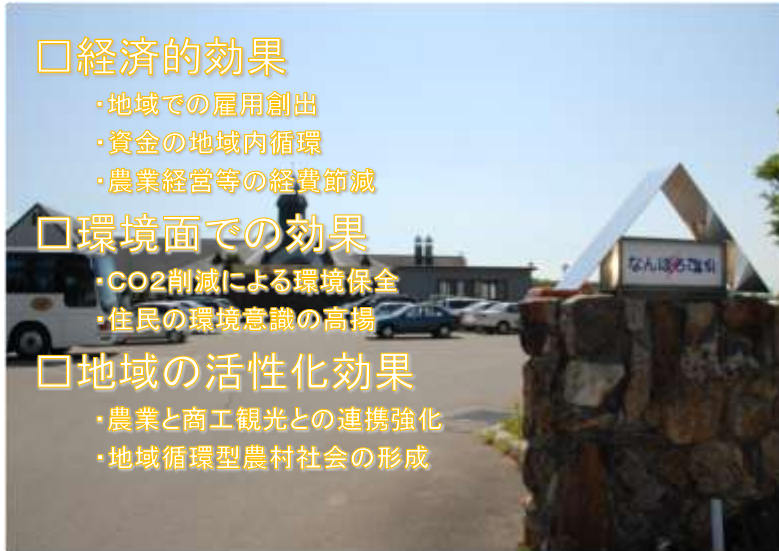
- ・地域での雇用創出
- ・資金の地域内循環
- ・農業経営等の経費節減

### □環境面での効果

- ・CO2削減による環境保全
- ・住民の環境意識の高揚

### □地域の活性化効果

- ・農業と商工観光との連携強化
- ・地域循環型農村社会の形成



## 事業の展開

### □平成20年度

- ペレットストーブの設置(役場ロビー、小学校)

### □平成21年度

- 太陽光発電システムの設置(保健福祉総合センター)

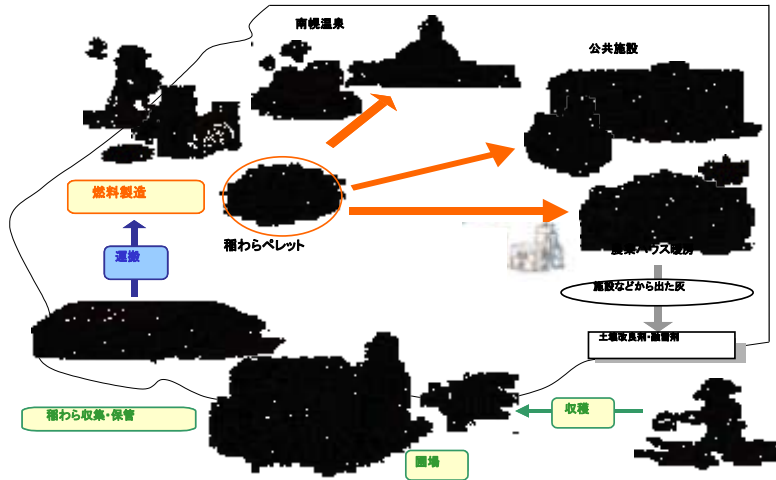
### □平成22年度

- バイオマスボイラー設備の導入(南幌温泉)
- 稲わらペレット製造機器導入(一村一炭素おとし事業)

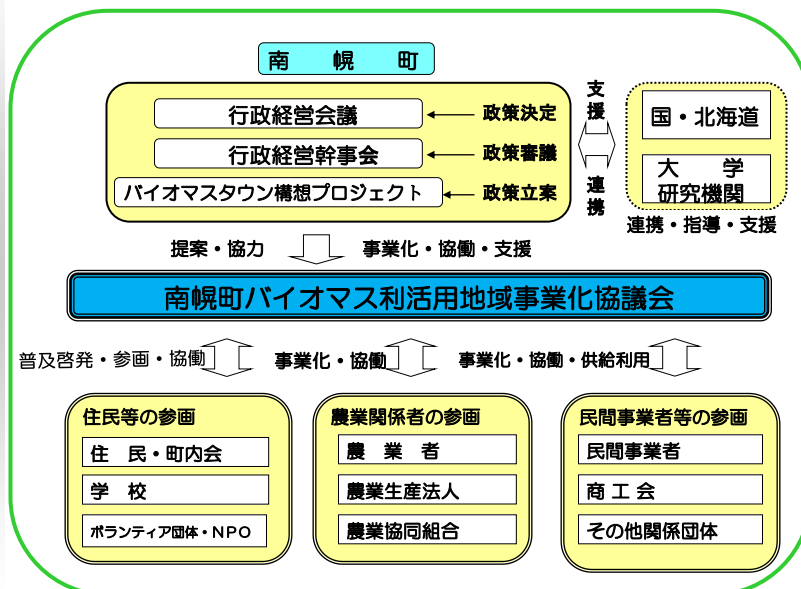




## 稲わら燃料利活用イメージ



## 稲わら利活用推進体制





## これからの取組み

- 南幌温泉との連携により化石燃料削減効果の検証
- 原料となる稲わらを安定的に確保するため、農協、農家、企業と連携した取組み
- 焼却灰の再利用の調査検証
- 町民への新エネルギーの取組みの普及



## その他のバイオマスの利活用の状況

□廃棄物系バイオマス(利用率92.7%)





## 事業化に向けた課題

### □事業推進に向けての課題

- ・地域に賦存するバイオマス資源を利活用するためには、行政だけではなく、町民の環境などへの理解、連携が不可欠であり、地域全体での推進体制が必要
- ・事業化には初期投資に多額の費用を要することから、厳しい財政状況の中での財源確保  
(国などの補助制度の活用)



## 最後に

□本町のように農業系の未利用バイオマスを利用した固形燃料事業や循環システムについては、例を見ないものであり、同じような農業地域で抱えている問題解決の先進事例の一つになれば幸いです。



ご静聴ありがとうございました。

